

## 第7回 豊岡市立小中学校適正規模・適正配置審議会 議事録（要旨）

- 1 日 時 2021年2月10日（水） 14時00分～14時40分
- 2 場 所 豊岡市役所本庁舎 3階 庁議室
- 3 出席者 《委員》（委員名簿順） 18名中16名出席（欠席2名）  
浅野 良一会長、中川 茂副会長、西谷 佳代委員、中島 章博委員、河本 美佳委員、宮崎 裕紀委員、二方 道正委員、平尾 洋委員、澤田 雅子委員、小田 知子委員、高階 正夫委員、増田 克志委員、加藤 勉委員、綱木 直美委員、貝口 志保委員、藤田 明治郎委員  
（欠席）西垣 浩文委員、木村 尚子委員  
※浅野良一会長はWeb会議システムにより出席  
《事務局》  
堂垣 真弓教育次長、飯塚 智士こども教育課長、木下 直樹こども育成課長、永井 義久教育総務課長、木之瀬 晋弥参事兼課長補佐、野崎 律男学校再編推進室長、細田 正徳係長、太田垣 輝尚主任
- 4 傍聴者 非公開につき傍聴者なし
- 5 主な内容
  - (1) 挨拶  
浅野会長から挨拶  
※ 内容については、「6 主な発言内容等（要約） (1) 挨拶」のとおり
  - (2) 議事  
ア 協議事項  
イ 答申(案)について  
※ 委員からの質問等については、「6 主な発言内容等（要約） (2) 協議事項」のとおり
- 6 主な発言内容等（要約）
  - (1) 挨拶  
《会長》  
皆さん、こんにちは。県内で非常事態宣言が解除されておらず、今回もオンラインでの参加となりましたがお許しください。特に副会長にはいろいろとお手数をおかけしますが、よろしくお願ひします。  
  
(2) 協議事項  
ア 答申（案）について  
《会長》  
それでは、次の議事に進む。事務局から説明をお願いしたい。  
  
《事務局》  
（事務局説明：答申（案）について）  
本日、審議いただきたいのは次の3点である。1点目は、答申（案）について、修正箇所を

含めた最終確認、2点目は、新たに作成した概要版の確認、まず、この2点について一括して意見をいただき、3点目として、答申(案)について、特に問題がなければ、お諮りいただき承認をいただきたい。

《会長》

事務局から、前回の審議会を受けての修正点等について説明があった。また、概要版についても説明があった。さらに、事前に委員の皆さんから出された意見についての対応も説明があった。これらの点について、ご意見をいただきたい。

(意見なし)

《会長》

よろしいか。意見もないようなので、今お手元にある答申案について、これを答申としていいかどうか、お諮りしたい。賛成の方は拍手でご承認いただきたい。

(拍手多数)

《会長》

ありがとうございました。賛成多数で承認されました。本日配布された答申案の「(案)」を削除し、答申としていただきたい。また、答申の日付を本日2月10日と記入いただきたい。

《会長》

議事としては以上である。

### (3) その他

《事務局》

今後の予定について説明する。

本日は、この審議会の後に答申の手交式を行う。委員の皆様も会場に残っていただきたい。また、手交式の後に全員の記念写真を撮影する。その後、報道機関向けにプレス発表を行う。当面の予定としては次のとおり。

5月半ばから6月にかけて、答申にかかる地域別説明会を行う。

その後、答申と説明会でいただいた意見を踏まえて、秋にかけて計画案を作成する。

秋には計画案についての説明会を行い、いただいた意見を踏まえて見直しを行う。

11月頃にはパブリックコメントを行い、計画を策定・公表する予定である。

計画策定後、優先度の高い学校区から順に説明会を行い、地元と協議を進めていきたい。

委員の皆様には、地域別説明会等では一般市民としてぜひ参加いただきたい。

《会長》

無事、答申が完成した。これで審議会の役割は終了した。最後に、委員の皆さんから一言

ずつ感想をいただきたい。

《A委員》

本当に丁寧に、住民にも保護者にも配慮された文言になっているし、素晴らしい答申ができたと思っている。これが後押しになったかどうかわからないが、竹野の方も一つ進んだので、今後ともよろしくお願ひしたい。この場に携わらせていただいたことは幸せに思う。

《B委員》

本当に丁寧に対応していただいた。答申に携わらせていただいて幸せに思う。見通しがつき、今後について明るい展望が開けてきたと思う。

《C委員》

この素敵な答申の作成に携わらせていただいて、とても勉強になったし幸せに思う。また、長期的な方針ができたが、これから社会がどんどん変わっていくということで、「常に子どもにとってどうか」という視点が大事だということをこの会議で学ばせていただいた。今後とも、現場の者としても、市民としても、そのことを大事にして見守っていきたい。

《D委員》

今回、この会議に携わらせていただいて、まだ小学校1年生の子どもがいるので、まさに今関わる問題であった。すごく丁寧に会議を進めておられるのを間近で見させていただいて、市も捨てたものではないなど、見直させていただいたというか、安心して生活できるなど思った。子どもも3人目にして少し教育のことをのぞかせていただいた。これからはもう少し学校のことにも積極的に関わっていきたい。会議の途中、わくわくするような、未来の明るい答申をと言ってきたが、立派なものに仕上がってうれしく思っている。

《E委員》

この審議会に参加させていただき、将来、間違いなく子どもの数が減るという現状が確認でき、最初の会議でも申しあげたが、まちづくりは人づくりであって、次世代を担う子どもたちがより良い教育環境の中で成長していくのが一番だと思うので、このすばらしい答申が将来の豊岡市を支える人材を育成し、一つの宝となることを心から期待し、祈念する。

《F委員》

みんなが必要だと思ひながらなかなか踏み込めなかった学校の再編を、どうやったらできるのだろう、誰がやってくれるのだろう、と分からないままこの場に出てきたが、こうして作り上げていくのかと、改めて納得しながら、このように現実的な理解をもって、多くの方の意見を集め、答申ができたことに皆さんに深く感謝する。

《G委員》

人生で初めてこのような審議会の場に参加させていただいた。最初はドキドキして、しっか

り自分の意見が言えるか不安であった。一つ一つ丁寧に、私たちの些細な意見も取り入れていただいて、すごくいい答申ができたのではないかと思います。この答申を通して、子どもたちがこれからも人数が少なくなって寂しい学校生活になってくると思うが、統合したりして人数が増えて、子どもたちの生き生きした表情が見られる豊岡市になればと思う。

#### 《H委員》

私自身、子どもがまだ3歳で、よく分からないこともあったが、この審議会に参加させていただいて、私自身も勉強させていただいた。人と人の中で子どもたちは育っていくと思うので、相手の気持ちが考えられる子どもたちがたくさん増えたらと思う。

#### 《I委員》

答申は出来上がったが、これから計画を策定され、地域の方の理解をいただくなどして進められると思う。10年から15年の計画という答申であるが、子どもたちの成長の中では、5年も経てば社会の情勢も変わってくるわけで、これで終わったという感覚よりも、これを機に、私自身、もっと子どもたちのことや学校教育のことなど、どうしたらいいのか絶えず自分の中で持ち続けたいと思ったことが、私にとってのこの審議会の成果ではないかと思っている。子どもたちの光を見ていくことが一番大事なことだろうし、10年先には世の中が変わってしまってどうなるか分からないが、その子たちが未来を背負っていくので、引き続き、いろんな場でいろんな議論をすることが大事ではないかと思いながら最後の会議に参加させていただいた。

#### 《J委員》

去年2月、当初の時点から思ったら、子育てをしている保護者の方にとっても寄り添った答申になったことをうれしく思う。忙しい中、教育委員会事務局の方には個別のグループの所にも出向かれ、若い保護者の思いを直接聞いてもらうことができ、とてもよかったと思う。人数が少なくても、声を上げることの大切さを今回感じた。但東はまだまだ課題がある地域ではあるが、とりあえずこの答申で一步進んだ。保護者の方に報告できることを喜んでいる。

#### 《K委員》

日頃は0歳から2、3歳までの子どもをもつ保護者の方と話をする機会がある職場ではあるが、港東・港西の保護者の方が事業で来られるときには、4月から統合するので、制服をどうするかとか、明るい話が聞けるようになっている。答申を前に進めていくことによって、保護者の方々が安心してそのような会話がたくさん聞かれるようになるのではないかと思って期待している。日頃、保護者の方に寄り添って、いろいろな子育ての悩みを聞く立場ではあるが、審議会に参加させていただくことによって、子育ては、小学校も中学校も高校も一緒なんだと、子育て中の保護者に寄り添うということをもっと幅広く、年齢も広く見ていかないといけないなど、改めて私の仕事を振り返る機会にもなった。丁寧な説明、丁寧な対応で答申案を作成されていかれることに驚いたし、豊岡市は、なかなかすてきだなと思った。

#### 《L委員》

昨年2月3日に辞令をいただき、これまでドギマギしながら今日を迎えた。一昨日、出石高校で高校生の発表会があった。その場に呼ばれて行ったときに、高校生が私に「Lさん、今年は、お城まつりはあるんですか？」と声を掛けてきた。何のことかと思ったら、彼は中学1年生の時に大名行列の槍振りをやっていた。私はその時に教えたということで、彼はずっと覚えてくれていて、声を掛けてくれたのだと思う。非常に感動した場面が突然あった。今回の答申がある中で、学校の統廃合であるが、教育というのは、地域で子どもたちを育てていくというのがひとつの教育であるということを一昨日初めて思った。何より、私が委員に選ばれて、メンバーに入れていただいたことに感謝を申しあげる。非常にいい答申ができた。

#### 《M委員》

審議の途中でも、地元から学校統合を望む声が挙げられ、教育委員会には柔軟に対応いただいた。それらについては、スムーズに統合ができるよう、準備を進めていただきたい。審議会ではいい勉強をさせていただいた。

#### 《N委員》

今、地球の人口は70億人とも言われている。10年後には100億人になるのではないかと予想されている。但馬も、日本も、全体が人口減で、将来このまま人口減が進んで行ってしまうのではないかと心配している。我々が若い頃は学校が統合するなど夢にも思っていなかった。それが今現実に起きている。将来、20年後、30年後、どういう状況になるのか予想もつかない。このことにどうこう言ったところでどうしようもないことで、仕方がないことはあるが、とてもいい勉強をさせていただいた。

### (4) 閉会挨拶

#### 《中川副会長》

この審議会での審議もいよいよ終わりにになりました。最後の閉会のあいさつになります。会長からお話がありましたが、1年間しっかりと議論をしていただき、皆さんの熱い思いが込められた答申書になったということで、皆さんと同様に良かったと思っています。

振り返ってみると、いくつか印象に残ったことがあります。真っ先には、会長の適切なリードによって、会議自体がいい雰囲気、自由に意見が言えたのではないかと思います。会長にお礼を申しあげたいと思います。今回の諮問については、比較的、委員として意見が言いやすい諮問内容であったと思います。市の他の審議会の諮問では、分野が多方面に及んでいて、その分野に詳しい委員だと自分の意見を出せるのですが、今回は教育一本に絞って、なおかつ、小中学校の適正規模・適正配置ということで、委員にとっても比較的身近な課題であったり、地域でも関心がある内容であったりして、率直に意見が言えたのではないかと思います。

2つ目は、今言ったことと相反するかもしれませんが、委員の中には現職の校長先生や園長先生、PTAの方、学校評議員の方、子育て関係の仕事に従事されている方、地域の代表の方もおられました。答申の審議の後半に入り、具体的な再編案の協議が進んでいく中で、組合せ

の話になった時には、地元でもいろんな意見が出ていたと思いますが、委員としてはどういう立場でこの会議で発言すればいいのか、悩まれた方もあったかと思います。その中でも、子どもたちの将来のことを考えて、俯瞰的な見方で、勇気をもって発言していただいたということが、非常に大きかったのではないかと思います。

それから、教育長をはじめ、事務局の方々にもお礼を言いたいと思います。全委員が毎回発言し意見がたくさん出されましたが、それをしっかり取りまとめていただきました。丁寧に説明してもらって、次の会議では修正すべきところは修正して、そうでないところも決して無視することなく、丁寧に説明してもらいました。我々は今日でお役御免となりますが、事務局の皆さんはそうはいきません。これから、説明会などで地域や保護者などに理解を求めることになりますし、市長部局とも駆け引きがあるでしょう。いずれの場面でも、決してひるむことなく、子どもを中心に考えていただいて、揺るがぬ信念でもってこれからも頑張りたいと思います。我々も陰ながら応援させていただきたいと思います。

終わりにになりましたが、この答申は、1年間、全員が手掛けた作品であります。熱い思いが込められたものです。教育委員会としての最終形がどうなるか分かりませんが、ここに込められた委員の思いも感じていただきながら、子どもたちにとってより良い教育環境を目指していただき、また、子どもたちも頑張りたいし、単に学力向上のためだけでなく、有意義な学校生活を過ごして欲しいと思います。委員の皆様、大変お疲れ様でした。私も大変勉強させていただきました。

以上